

ごあいさつ

東九州自動車道建設促進協議会
東九州軸推進機構



東九州自動車道建設促進協議会 会長
(宮崎県知事)
河野 俊嗣



東九州軸推進機構 会長
(一社)九州経済連合会 会長
倉富 純男

東九州自動車道は、九州縦貫自動車道及び九州横断自動車道と一体となって、九州の循環型高速道路ネットワークを形成し、東九州地域はもとより、九州全体の産業・経済・文化の一体的発展や地域間の交流・連携の推進、さらには救急救命や災害対策に大きく貢献する「活力の道」、「生活の道」、「命の道」としての最重要路線です。

平成28年熊本地震では、九州自動車道や大分自動車道が寸断される中、東九州自動車道が支援ルートや代替ルートとして大きく貢献したところであり、今後、発生が懸念される南海トラフ地震等の災害時などにおいて、地域住民の安全・安心を確保するために、必要不可欠な道路です。

東九州自動車道の沿線地域では、平成28年4月の北九州市から宮崎市間の広域開通後、新たなヒトやモノの流れが生まれ、交流人口や企業立地が増加するなどのストック効果が発揮されています。

また、「清武南IC～日南北郷IC」間が令和5年3月に開通し、「菊田北九州空港IC～行橋IC」間の一部区間や「加治

木IC～華人西IC」間の4車線化が完成するなど、今後ストック効果の更なる波及が期待されています。

しかしながら、「南郷～奈留」間は未だ事業化に至っておらず、全線開通にはまだ時間を要する状況にあります。さらに、開通区間については、「高速道路における安全・安心基本計画」により、4車線化が順次進められていますが、現在もほとんどが暫定2車線区間となっており、事故防止や時間信頼性の確保、大規模災害時の対応等の観点からも4車線化の早期実現が課題となっています。

全線開通している九州自動車道や九州新幹線鹿児島ルートに加え、西九州新幹線も一部の区間が開業するなど西九州地域と比較し、東九州地域の高交通体系の整備は大きく遅れています。

今こそ、東九州4県1市が丸となって、東九州軸の発展のために、これまで以上に東九州自動車道の必要性・重要性を中央に強くアピールし、一日も早い全線開通の実現に向けて邁進いたしましょう。



東九州軸の発展を目指し
つくって活かそう! 東九州道



副会長(福岡県知事)
服部 誠太郎



副会長(大分県知事)
佐藤 樹一郎



副会長(鹿児島県知事)
塩田 康一



副会長(北九州市長)
武内 和久

主催/東九州自動車道建設促進協議会・東九州軸推進機構
後援/公益財団法人日本青年会議所 九州地区協議会

Higashi-kyushu Expwy.

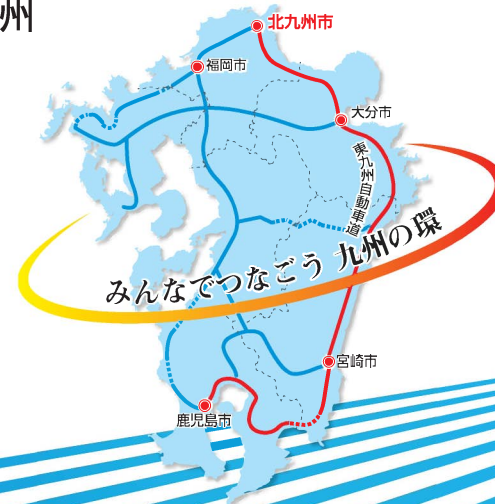
東九州自動車道 建設促進地方大会

東九州軸の発展を目指しつくって活かそう! 東九州道

令和5年8月2日(水) 13:30~16:00
ホテルクラウンパレス北九州

プログラム

- 第一部
歓迎挨拶
基調講演
- 第二部
開会挨拶
主催者挨拶
来賓挨拶
各県知事アピール
沿線住民代表の意見発表
大会決議
がんばろう三唱
閉会



菊田北九州空港～行橋間【4車線化完成】

みらい
つなぐ
北九州
60th

福岡県
Fukuoka Prefecture

大会決議(案)

九州の東海岸部を南北に走る東九州自動車道は、福岡、大分、宮崎、鹿児島県の4県からなる東九州地域の日常生活や通勤通学に必要な「生活の道」であり、また、「平成28年熊本地震」では、九州自動車道及び大分自動車道が寸断される中、支援ルートや代替ルートとして大きく貢献するなど、災害時には「命をつなぐ道」として機能しており、南海トラフ地震等の今後も想定される大規模災害に対応するため、東九州自動車道の早期全線開通及び機能強化による一層の国土強靱化が必要である。加えて、地方創生の基盤となる地域の産業・経済の発展を支える「活力の道」ともなる東九州自動車道は、平成28年4月の北九州市から宮崎市間の広域開通後、人や物の流れが格段に活発化しており、まさに東九州地域の「屋台骨」である。

さらに、西九州の九州自動車道と連結することにより、九州を一周する循環型高速道路ネットワークが完成し、東九州地域はもちろん、九州全体の産業・経済・文化の一体的浮揚が図られる待望の路線である。

全延長436kmのうち約91%の区間が開通しているが、全線開通している九州自動車道や九州新幹線鹿児島ルートに加え、西九州新幹線も一部開業した西九州地域と比べ、東九州地域の高速度交通体系の整備は大きく立ち遅れている。

東九州自動車道の完成は、東九州地域900万人を超える沿線住民の長年の悲願であり、その熱い思いを毎年の建設促進地方大会で決議し、189万人もの方々の署名を、我々は中央関係機関に届けてきた。

このような地元への熱意を十分踏まえるとともに、インフラ投資はコロナ禍からの復興局面においても地域経済を下支えするものであることから、資材価格の高騰や賃金水準の上昇に対応する中でも、遅れている東九州自動車道の早期整備が図られるよう、次の事項について強く提言する。

- 「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に必要な予算・財源を例年以上の規模で確保し、高規格道路のミッシングリンクの解消や老朽化対策等を計画的に推進すること。また、対策期間完了後においても、昨今の地震・豪雨・豪雪などの災害の状況も踏まえた上で、国土強靱化に必要な予算・財源を通常予算とは別枠で確保して、継続的に取り組むこと。
- 令和6年度予算については、高速道路網の整備を推進するための所要額を満額確保すること。
- 整備が遅れている地方への高速道路関連予算の重点配分を行うとともに、住民の「暮らし」と「命」に関わる高速道路ネットワークを早期に構築すること。
- 未事業化区間「南郷～奈留 間」の早期事業化を図ること。
- 事業中区間については、開通目標年次を明確にし、着実に整備を推進すること。
- 有料の高速道路の良好なインフラを持続的に利用するため、料金徴収期間の延長により確保した財源を活用し、更新事業等の追加や暫定2車線区間の4車線化などの機能強化を進めること。特に、暫定2車線区間の4車線化については、優先整備区間の整備をよりスピードアップして行うこと。
- 道路利用者の安全性や利便性の向上のため、休憩施設の更なる充実を図るとともに、スマートICの整備など地域との連携を図ること。
- 災害発生時における機能確保や維持管理を確実にするため、地方整備局等の人員体制や資機材の充実・強化を図ること。

以上決議する。

令和5年8月2日

東九州自動車道建設促進地方大会

基調講演

演題 九州の経済発展と交流インフラ

講師



公益財団法人九州経済調査協会
常務理事兼事業開発部長
おかの ひでゆき
岡野 秀之 氏

■経歴

- 昭和48年1月横浜市出身、北九州市戸畑区育ち
- 平成9年3月九州大学大学院比較社会文化研究科修士
- 平成9年4月財団法人九州経済調査協会入社
- 調査研究部研究主査、主任研究員、総務企画部次長、調査研究部長、事業開発部長兼BIZCOLI館長などを経て、2023年6月から現職
- 専門分野 地域経済論、産業配置論、地域産業政策論

■主な公職歴

- 国土交通省九州圏広域地方計画有識者会議委員
- 九州地方整備局九州地方新広域道路交通ビジョン等の検討にかかる有識者懇談会委員
- 行橋市今川パーキングエリア交流拠点ランドデザイン策定委員会委員 等

沿線住民代表の意見発表

福岡県 行橋市

■テーマ

「2024年問題」と九州と日本の未来を支える東九州自動車道

おおほうえ まさと
大上 正人 氏 (株式会社ロジコムホールディングス)

■プロフィール

- 株式会社ロジコムホールディングス 代表取締役社長
- 2019年に自動車部品を取り扱う物流会社の3代目社長に就任
- 就任直後からのコロナ禍を乗り越え、2023年に行橋市に最新鋭の自動化設備を導入した倉庫を新設

鹿児島県 志布志市

■テーマ

東九州自動車道でつながろう！
幸せな未来のために

よしどの りな
吉留 李奈 氏

■プロフィール

- 鹿児島大学大学院理工学研究科建築学専攻修士
- 久徳建設株式会社 取締役
- (公社)新大隅青年会議所 第45代理事長
- FMおおさきパーソナリティ
- 地域の魅力発信、活性化のため活動中



豊前 IC (福岡県)



中津 IC (大分県)



日南北郷 IC (宮崎県)



鹿屋串良 JCT (鹿児島県)